

テーマは「きになる」住まいの“きになる”について考えます。

住まいのきになる通信 NO. 1

平成29年 12月のきになる通信



住まいのきになる - 外壁(サイディングの場合) その1

症状 - 目地のコーキングが割れてきた

☆考えられる原因

・サイディングで一番の問題は、目地のコーキングです。経年変化で割れてくる場合と、地震など外部からの力が割れる原因となることもあります。

☆コーキングの種類

・コーキングには主にアクリル、ウレタン、変性シリコン、シリコンがあります。どのコーキングが使われているか調べてみましょう。

☆対処方法

・目地をすべて直すためには、足場を組む必要があります。専門業者に依頼してください。

①自分で処理できると思う範囲の場合は、まずカッターで割れている部分を切り取り、ブラシなどでごみやほこりを除きます。

②マスキングテープを両脇に貼り（1ミリ～2ミリ程度広めに貼ります）、プライマーを塗り、乾燥後にコーキングで埋めます。

③塗装しないのであれば、マスキングテープをはがして完了です。

アクリル、ウレタンは塗料が乗りやすく、シリコンは基本的に色は乗りません。

・住宅の高い部分や、割れの状態がひどい場合は、危険で処置が困難なため、施工業者（工務店）に依頼してください。

（参考：NPO法人家づくり援護会「わが家の診断&対処法」）



テーマは「きになる」住まいの“きになる”について考えます。

住まいのきになる通信 NO. 2



マンション、都心に回帰 「職住近接」で人気集中

- ・マンションの都心回帰が鮮明。消費者の「職住近接」志向や富裕層の節税対策で、都心部のマンションに人気集中しています。
- ・近畿圏は、大阪市北区の敷地割合が2007年の4.18%から、今年9月時点では5.77%まで上昇。オフィス街の色彩が濃かった中央区でもタワーマンションが増えています。

(2017年11月1日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



住宅診断 - ホームインスペクション その11

報告書はわかりやすく

- ・報告書は診断結果を参考にしやすいように、診断根拠の解説などを記載し、情報を的確に伝えるものであるべきです。
- ・診断報告書には調査範囲や確認した項目、確認された不具合と診断根拠、現地で撮影された写真などを載せ、それ以外の機能的に問題ないと考えられる施工誤差や経年劣化などの情報は、必要に応じて省略することも、要点を分かりやすくするためにも重要です。
- ・必要に応じて写真や位置などを添付することが望ましいでしょう。

(NPO法人日本インスペクターズ協会 ホームインスペクター資格試験テキストより抜粋引用)

